

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	あしあと		
○保護者評価実施期間	2025年1月22日		～ 2025年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	2025年2月24日		～ 2025年3月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所は敷地が広く、自然豊かな周辺環境に恵まれています。また、公園、広場、児童館などの施設が充実しているため、屋外活動やレクリエーション活動を積極的に行っています。	敷地内で運動ができる環境を活かし、毎月の支援プログラムではキッズトレーニングを定期的実施しています。また、レクリエーション活動にも積極的に運動要素を取り入れるなど、子どもたちが楽しく身体を動かせる機会の提供に注力しています。	支援プログラムを計画する際には、子どもたちがいつでも新鮮な体験を得られるよう、活動曜日を固定せず、多様な内容を意識して工夫を行っています。この取り組みにより、マンネリ化を防ぎ、利用者に常に新しい刺激を提供しています。
2	園芸活動を通じて、植物を育てる中で土や水に触れ、匂いや自然の息吹を感じることができます。これにより、人間の五感が刺激されるだけでなく、心が落ち着き、リラックス効果も期待できます。	毎月の支援プログラムでは、自然と触れ合う楽しさを提供するために園芸活動を定期的実施しています。この活動は集団行動の向上にも役立つことから、子どもたちがスムーズに行動に移れるよう、丁寧な声掛けや適切なサポートを意識して行っています。	園芸活動では、野菜や花の植え付けだけでなく、収穫や料理体験なども取り入れ、子どもたちが自然と触れ合いながら学ぶ機会を提供していきます。また、グループ作業を通じて役割分担や協力を学び、コミュニケーションを促進する丁寧な声掛けにも力を入れています。
3	就労継続支援事業所(A/B)と連携し、職場体験や交流を通じて、利用者がスムーズにライフステージを切り替えられるような活動に取り組んでいます。	主に学校休業日を活用し、職場見学や体験を定期的実施しています。社会で自立して生きやすく生活するための仕組みや環境を学べる機会を提供することで、子どもたちの将来を見据えた支援に力を入れています。	職場見学や体験の回数を増やし、全ての利用者に平等な機会を提供することを目指しています。その実現に向けて、支援事業所との連携を一層強化して取り組んでいます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	海が近いため、津波のリスクがあります。	安全な避難経路の確保や定期的な避難訓練、防災意識の向上といった対策が重要な課題となっています。	海が近いため津波リスクがあることを踏まえ、安全な避難経路の確保や定期的な避難訓練、防災意識の向上に努めています。また、迅速な緊急連絡体制の構築や非常用備品の準備など、万一の災害に備える取り組みを進めています。
2	利用者の増加に伴い、室内活動において時折窮屈さを感じる場合があります。	体を動かすことが大好きな子どもたちが多く一方で、特に雨の日には外出が制限されることでストレスが高まり、窮屈さを感じる傾向が見受けられます。	快適に過ごせるよう、室内の温度調節や整理整頓を徹底することに加え、屋内でも子どもたちが楽しく身体を動かせるプログラムを工夫しながら充実させていきます。この取り組みにより、季節や天候を問わず快適に過ごせる環境づくりを目指しています。
3	就労継続支援事業所(A/B)との活動(就労)時間の違いや地理的な距離が課題となり、利用者が機会を得られる場が限られてしまいます。	利用者が機会を得られる場が学校休業日(長期休暇)に限られるため、計画の柔軟性が難しくなっています。	保護者の負担軽減を目指し、洗濯委託業務やお弁当販売などのサービスを提案・提供していきます。これにより、交流の機会を増やし、活動内容を広く周知していく取り組みを進めていきます。